

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 7月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501268
法人名	筑後保健生活協同組合
事業所名	虹の家 きなっせ
所在地 (電話番号)	大牟田市大字吉野1364の1 (電話) 0944-59-9540
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年5月26日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	2人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	木造セメント瓦葺	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,200 円	その他の経費	有り
敷金	有(円)	有	無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(平成 19年 4月 26日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中友診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小鳥のさえずりが聞える住宅街の中に位置し、ホームの建物は周りの住宅との違和感もなく地域にとけ込んでいる。入居者と職員が共に育て、収穫された野菜は「リハビリ野菜」と名付けられ、調理や配膳までも、できることを出来る範囲で楽しく、残存機能を日常生活の中に無理なく取り入れている。入居者の穏やかな明るい感じが印象的であった。また入居者は地域の一員として老人会行事や夏祭り等に参加しており、地域に密着したグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義を理解し、会議などで改善すべき点などを検討し、全員で具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議において介護の状態や状況を報告して、意見や要望を十分に聞き入居者へのより良いサービスの向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 職員は、家族面会時に意見や要望など出し易い雰囲気作りに努めている。苦情相談については、公的窓口及びホーム内窓口の存在を重要事項説明書に明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民の一員として老人会の催しや地域の夏祭りなどに参加して、地元の方々との交流を図っている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「我が家で家族として暮す」を理念として地域の中に自然体で密着した生活が続けられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の朝礼時、毎月の職員会議等で理念の実践に向けて取り組み、職員の採用時には、事前研修時に説明をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での夏祭りや老人会に参加したり、ボランティアに依る絵の指導や、舞踊等の訪問の受け入れをしている。また、入居者が在宅時に入会していた地域での老人会行事にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義を毎月の職員会議等で改善すべき事項を検討し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の取り組み(家族の支援を得ての日帰り旅行)介護の状況を報告し、また参加者の意見、要望を聞きサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状報告や、行事の報告と共に、対応方法について話し合い利用者へのサービスについて連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	先ず職員がこの制度を理解する為に、機会がある度に勉強を行っており、入居者や家族に情報の提供をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだより「いつでもきなっせ」にて行事報告や案内を定期的に発送し、健康状態や状況については、個々に電話にて報告している。職員の異動は事前に通知する旨、説明書に明記している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談については公的窓口及び施設の窓口の存在を重要事項説明書に明記し、運営推進会議にて説明をしている。又、家族会にて説明し意見の交換をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安を第一に考え職員の異動については細心の配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については介護の専門性を重視し有資格者(ヘルパー)を基準にしており、年齢性別等を理由に採用対象から排除することはない。又、利用者に支障のない範囲での社会参加の勤務体制が出来ている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政の指導、通知に基づいて定期的に外部研修や内部学習に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術や知識の向上、ひいては専門職としての資格取得に向けて段階に応じての順次外部研修への参加を促進している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問を実施し、観、聴きしたことをサービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の十分な情報を得た上で家族と共に見学を重ねたり、対話する中で徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「出来ることを楽しみながら出来る範囲で」を基に食材の下準備、掃除など職員と共に日常生活を共有し支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集を行い日々の関わりの中で希望や要望を伺い、思いや意向の把握に努めている。思いをうまく伝えられない方には、家族等から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等より得た思いや意向を基に、職員及び関係者間で話し合い、検討して可能な限り本人の意向が反映された介護計画の作成に取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の介護経過記録による状態の変化および本人や家族等の要望に応じ、毎月全職員でモニタリングを行い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、受診の送迎・入院時は毎日の見舞いと洗濯物の持ち帰り・職員による散髪・家族の宿泊受け入れ等、臨機応変かつ柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の要望に応じて、それぞれのかかりつけ医の受診および在宅支援診療所と連携を図り、24時間健康管理体制のしくみをつくっている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族等と看取りに関する同意書を交わしている。このことについて全職員で方針を共有している。医師の協力を得て「終末期における医療処置の対応と方針や支援の具体的な内容」について6月研修会を予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は言葉かけや個人情報の取り扱いに十分に配慮している。入居者の個人的な話は、職員が各居室を訪問し伝えるようにしている。入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングルームでおしゃべりを楽しんだり、自室で過ごしたり、入居者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、本人が心地よいと思える過ごし方を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話のなかで入居者の好みを伺い、できる限り希望に沿った献立にしている。野菜類の下処理・味付け・盛り付け・片付けに至るまで入居者と共に行っている。一名の入居者は身体状況に合わせた調理方法を行い、入居者と全職員が同じテーブルを囲んで同じ物を一緒に食べている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の体調と希望を確認しながら、入浴の順番等に配慮している。入浴時間は入居者と職員との、絶好の心の交流の場として、その時間を有効に活用し、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り・洗濯物のたたみから仕分けまで・花の水かえ等、趣味や気晴らし、得意とすることをして頂いている。済んだあとは必ず感謝の言葉かけを行い、入居者の安心と自信につながるように日々の暮らしを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のお宅に招待されたり、散歩や買物等その日の天候や入居者の希望に応じて戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。最寄駅や警察および地域の人に見守りや声かけの連絡をして頂けるように協力を依頼している。不穏状態をつくらないように、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	大牟田防災の協力を得て、避難訓練・避難場所の確認・避難経路の確保・消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。非常用の飲料水も確保しており、地域住民・消防団・運営推進会議のメンバー等と連携を図りながら、協力体制を築いている。	○	マニュアルが作成されているがファイルされている状態である。日常的に見ることができる方法での検討が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限を必要としている入居者の水分管理およびミキサー食の入居者についても本人の希望により、ご飯はおむすびにして食が進むように工夫している。個別に食事・水分摂取量を毎食記録し全職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にテーブルセット・畳敷きのコーナー・中庭にウッドテラスを設け、日中は共用空間で居心地よく過ごせるような工夫をしている。裏庭にピーマン・きゅうり・なす・とまと等を利用者と一緒栽培し、生活感と季節感を意識的に採り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の希望と状況により畳とベットの部屋を用意している。それぞれ本人の使い慣れた布団・家具・時計等の馴染みの物品を配置し、安心して過ごせる場所となるように支援している。</p>		